

研究分野のキーワード：カリキュラム（教育課程）、授業づくり、教育評価論、学力論

## 研究紹介

私は、教育方法学の立場から「教育評価の問題」を探究しています。そのアプローチとして、現在は主に三つの方向で研究を展開しています。第一は「韓国におけるカリキュラム評価研究」、第二は「日韓におけるパフォーマンス評価研究」、第三は「評価を生かす授業設計と改善」です。

### 1. 韓国におけるカリキュラム評価研究

韓国では、教育課程評価院（日本の国立教育政策研究所に該当）によって 1997 年より国家的な教育評価改革が進められています。この改革は、アメリカを発信源とする「真正の評価」論に基づく「パフォーマンス評価」（performance assessment）を入試改革、教育課程、授業における評価にまで広く導入するものであり、教育政策としては先進的なものです。そこで、アジアでいち早くパフォーマンス評価をナショナルカリキュラムとして導入・実施し、すでに教育内容の見直しを行っている韓国におけるパフォーマンス評価の理論と実践の研究蓄積を批判的に検討し、その教育評価論が初等教育段階の学習評価の制度・実践にどのような影響を与え、指導の改善にいかにか寄与してきたのかを明らかにすべく取り組んでいます。

### 2. 日韓におけるパフォーマンス評価研究

パフォーマンス評価は、学習と指導の改善に活かすための評価という考え方をもたらしたと言えます。この点で、現在、多くの国々においてパフォーマンス評価が新たな評価法として注目されており、日本や韓国でも関心が高まっています。パフォーマンス評価は、課題に対する学習者の実践的なアプローチを評価する評価法の 1 つであり、選択型試験のような従来の評価システムとは異なり、学習者の知識の「量」よりも、知識を「どのように活かすのか」が重要な評価対象とされています。現在は、パフォーマンス課題を設計し、その課題をベースにした指導と評価に関する実践的研究を行っています。

### 3. 評価を生かす授業設計と検証

教員の教育力量を向上させることを目指し、授業改善を行うための実践活動としてパフォーマンス課題と「ルーブリック（評価指標）」作りにおける具体的な評価方法を提案しています。ルーブリックは、児童生徒に、自身の学習のプロセスと結果がこれからどのように評価されるのかを理解させるための効果的な道具になります。そのうえ、ルーブリックによって、教師は学習の狙いや意義などを明確にし、適切に見極めて点数や評価に反映させることができます。現在は、学習の改善策へ有機的につなげるといった評価の活用の仕方など、その教育的側面について研究を進めています。